

小児がん拠点病院 現況報告書

令和元年9月1日時点について記載

✓チェック欄
に未入力なし

病院名	北海道大学病院												
よみがな	ほっかいどうだいがくびょういん										✓		
郵便番号	〒	060-8648									✓		
住所	北海道	札幌市北区北14条西5丁目									✓		
よみがな		さっぽろしきたくきた14じょうにし5ちょうめ									✓		
電話(代表)	011-716-1161										✓		
FAX(代表)	011-706-7627												
e-mail(代表)	syomuk@med.hokudai.ac.jp												
HPアドレス	http://www.huhp.hokudai.ac.jp/index.html												
診療科	開設診療科数	33									✓		
	診療科名(具体的に記載)	内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、神経内科、腫瘍内科、消化器外科、呼吸器外科、循環器外科、整形外科、泌尿器科、循環器内科、血液内科、神経内科、腫瘍内科、消化器外科、呼吸器外科、循環器外科、整形外科、泌尿器科、麻酔科、形成外科、小児外科、乳腺外科、救急科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、精神科、脳神経外科、リハビリテーション科、産科、婦人科、小児科、放射線科、放射線治療科、放射線診断科、病理診断科、歯科、小児歯科、矯正歯科、歯科口腔外科									✓		
外来診療受付時間	曜日	月～金(小児科初診)	時間	8	時	30	分	～	12	時	00	分	✓
	曜日	月～金(小児科再診)	時間	8	時	30	分	～	11	時	00	分	
	曜日		時間		時		分	～		時		分	
外来診療時間	曜日	月～金(小児科初診)	時間	9	時	00	分	～	12	時	00	分	✓
	曜日	月～金(小児科再診)	時間	8	時	30	分	～	17	時	00	分	
	曜日		時間		時		分	～		時		分	
休診日	土・日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)										✓		
初診時の予約	すべての診療科で必要		(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)								✓		
初診時の紹介状の可否	一部の診療科で必要		(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)								✓		
病床数	総病床数	944	床								✓		

診療実績 (平成30年1月1日～12月31日)

年間新入院患者数 ※1	17,950	人	✓
年間新入院小児がん患者数 ※1	188	人	✓
年間新入院患者数に占める小児がん患者の割合	1.0	%	
小児がん入院患者数 ※2	169	人	✓
小児がん入院患者在院延べ日数 ※2	7,620	日	✓
小児がん入院患者における再発患者数 ※3	37	人	✓
外来小児がん患者数 ※4	5,278	人	✓
緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん患者数 ※5	8	人	✓
セカンドオピニオンの対応を行った小児がん患者数 ※5	1	人	✓
他施設から紹介され受け入れた小児がん患者数 ※5	60	人	✓
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	42	機関	✓
小児がん患者の他施設への紹介患者数 ※6	24	人	✓
小児がん患者を紹介した医療機関数	19	機関	✓

※1 18歳以下を対象とする。年間新入院患者数は総数を計上する。

※2 入院患者数は延べ数で計上する。なお、同一患者が当月中に2回入院した場合には2件とし、入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も計上する。

※3 18歳以下を対象とする。初回治療後に再発もしくは病態が増悪した入院患者数を延べ数で計上する。初回治療入院中に再発もしくは病態が増悪した場合も計上する。

※4 診断時18歳以下の診断例とする。当年の診療録の作成または記載の追加を行った、新来もしくは再来小児がん患者の延べ数を記入する。同一患者が2つ以上の診療科を受診し、それぞれの診療科で診療録の作成または記載の追加を行った場合、それぞれの外来患者として計上する。

※5 診断時18歳以下の診断例とし、総数を計上する。

※6 診断時に18歳以下であった患者の総数を計上するが、紹介時には18歳を超えていても構わない。

がんに関する専門外来の名称

小児外科外来、禁煙外来、ストーマ外来、リンパ浮腫外来、リンパ浮腫ケア外来、緩和ケア外来、セカンドオピニオン外来、がん遺伝子診断外来

✓

届出された先進医療の状況

先進医療への対応状況(小児がんに関するもの)

[別紙1](#)

職員数

総数(事務職員を含む)

2,726 人

人数 うち常勤(※)

医師

646 237

歯科医師

229 93

薬剤師

67 67

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

保健師
看護師
准看護師
理学療法士
作業療法士
視能訓練士
言語聴覚士
義肢装具士
診療放射線技師
臨床検査技師
衛生検査技師
臨床工学技士
管理栄養士
栄養士
社会福祉士
精神保健福祉士
介護福祉士
保育士

0	0
943	918
0	0
16	16
10	10
11	11
6	5
0	0
57	56
78	72
0	0
18	18
7	7
0	0
7	7
5	5
0	0
2	2

みなさない。

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

人数 うち常勤(※)

日本小児血液・がん学会 専門医
日本小児血液・がん学会 指導医
日本小児血液・がん学会 暫定指導医
日本小児血液・がん学会 認定外科医
日本小児外科学会 専門医
日本小児外科学会 指導医
日本小児科学会小児科 専門医
日本小児神経学会 小児神経専門医
日本脳神経外科学会 脳神経外科専門
日本病理学会 病理専門医
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
がん治療認定医機構 がん治療認定医
がん治療認定医機構 暫定教育医
日本放射線腫瘍学会 認定医
日本緩和医療学会 緩和医療専門医
日本緩和医療学会 緩和医療認定医
日本看護協会 がん看護専門看護師
日本看護協会 小児看護専門看護師

4	4
3	3
6	3
1	1
1	1
1	1
47	45
3	3
14	14
7	6
10	10
22	21
5	5
11	11
0	0
0	0
1	1
1	1

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

日本看護協会 地域看護専門看護師
 日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師
 日本看護協会 緩和ケア認定看護師
 日本看護協会 がん性疼痛看護認定看護師
 日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師
 日本看護協会 摂食・嚥下障害看護認定看護師
 日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師
 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
 日本医療薬学会 がん専門薬剤師
 日本臨床細胞学会 細胞検査士
 日本医学放射線学会 医学物理士
 日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師
 日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士
 一般社団法人 日本病態栄養学会/
 公益社団法人 日本栄養士会 がん病態栄養専門管理栄養士
 一般社団法人日本人類遺伝学会
 及び日本遺伝カウンセリング学会 認定遺伝カウンセラー
 一般社団法人日本家族性腫瘍学会 家族性腫瘍カウンセラー
 チャイルドライフスペシャリスト
 ホスピタルプレイスペシャリスト

0	0
6	6
2	2
0	0
3	3
1	1
3	3
0	0
3	3
7	7
9	9
7	7
0	0
3	3
1	1
0	0
0	0

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

病院名: 北海道大学病院

「A」項目の充足状況・・・ 76 / 76

100.0%

1 診療体制			A : 必須 B : 望ましい - : 参考		はい: 記載内容を満たしている いいえ: 記載内容を満たしていない		チェック欄に未入力なし		Aの充足状況	
(1) 診療機能										
① 集学的治療の提供体制および標準的治療等の提供										
イ ウ エ オ カ キ	小児がんについて、手術療法、放射線療法および薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療および緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療（以下「標準的治療」という。）等小児がん患者の状況に応じた適切な治療を提供している。		A	はい	(はい／いいえ)		8	☒	☐	
	専門とするがんについて別紙2に記載すること。			別紙2			9			
	小児がん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、カンサーボード（手術療法、放射線療法および薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師その他の専門を異にする医療従事者等によるがん患者の症状、状態および治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンスをいう。以下同じ。）を設置し、定期的に開催している。また、必要に応じて、歯科医師や薬剤師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士（特に医療ソーシャルワーカー）、公認心理師等の専門的多職種の参加を求めている、カンサーボードで検討した内容については、記録し、関係者間で共有している。		A	はい	(はい／いいえ)		10	☒	☐	
	カンサーボードの開催回数（平成30年1月1日～12月31日）		-	23	回		11	☒		
	小児がん連携病院と協力し、小児がん患者に対して、移行期医療や成人後の晩期合併症対応等も含めた長期フォローアップ体制を構築している。		A	はい	(はい／いいえ)		12	☒	☐	
	長期フォローアップ外来（小児がん経験者の健康管理、晩期合併症の予防、疾病の早期発見・早期治療のための外来）を開設している。		-	はい	(はい／いいえ)		13	☒		
	長期にわたり診療するための具体的な診療体制について別紙3に記載すること。			別紙3			14			
	AYA世代にあるがん患者について、がん診療連携拠点病院等への紹介も含めた適切な医療を提供できる体制を構築している。		A	はい	(はい／いいえ)		15	☒	☐	
	AYA世代への診療提供体制（自施設・他施設の成人診療科との連携状況）について別紙4に記載すること。			別紙4			16			
	急変時等の緊急時に小児がん患者が入院できる体制を確保している。		A	はい	(はい／いいえ)		17	☒	☐	
治療に伴う生殖機能への影響など、がん治療開始前に適切な情報提供を行うとともに、患者等の希望も踏まえ、生殖機能の温存の支援を行う体制を構築している。		B	はい	(はい／いいえ)		18	☒			
生殖機能の温存の支援を行った患者数やその体制について別紙5に記載すること。			別紙5			19				
保険適応外の免疫療法等の先進的な治療を実施する場合は、科学的知見を集積する観点から、原則として治験、先進医療を含めた臨床研究の枠組みで行っている。		A	はい	(はい／いいえ)		20	☒	☐		
② 薬物療法の提供体制										
薬物療法のレジメン（治療内容をいう。）を審査し、組織的に管理する委員会を設置している。なお、当該委員会は、必要に応じて、カンサーボードと連携協力すること。		A	はい	(はい／いいえ)		22	☒	☐		
薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制について別紙6に記載すること。			別紙6			23				
③ 緩和ケアの提供体制										
小児がん拠点病院の指定要件で規定する小児の緩和ケアチーム（以下「緩和ケアチーム」という）を整備し、当該緩和ケアチームを組織上明確に位置付けるとともに、小児がん患者に対し適切な緩和ケアを提供している。		A	はい	(はい／いいえ)		25	☒	☐		
緩和ケアチームの組織・体制について別紙7に記載すること。			別紙7			26				

緩和ケアチームへの患者紹介の手順について別紙8に記載すること。

別紙8

27

イ	外来において専門的な小児の緩和ケアを提供できる体制を整備している。	B	はい	(はい／いいえ)	28	☒	
	緩和ケア外来について別紙9に記載すること。		別紙9		29		
ウ	緩和ケアチーム並びに必要なに応じて主治医および看護師等が参加する症状緩和に関するカンファレンスを定期的に開催している。	A	はい	(はい／いいえ)	30	☒	☐
	緩和ケアチームによるカンファレンスを開催した回数(平成30年1月1日～12月31日)	-	8	回	31	☒	
エ	院内の見やすい場所に緩和ケアチームによる診察が受けられる旨の掲示をするなど、小児がん患者およびその家族等に対し必要な情報提供を行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	32	☒	☐
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	医療機関のwebサイトに掲載			33	
オ	小児がん連携病院やかかりつけ医等の協力・連携を得て、主治医および看護師が緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な説明および指導を行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	34	☒	☐
カ	小児の緩和ケアに関する要請および相談に関する受付窓口を設けるなど、小児がん連携病院や地域の医療機関および在宅療養支援診療所等との連携協力体制を整備している。	B	はい	(はい／いいえ)	35	☒	
	緩和ケア病棟について別紙10に記載すること。		別紙10		36		
④ 病病連携・病診連携の協力体制					37		
ア	小児がん連携病院や地域の医療機関から紹介された小児がん患者の受入れを行っている。また、小児がん患者の状態に応じて、小児がん連携病院や地域の医療機関等へ小児がん患者の紹介を行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	38	☒	☐
	地域の医療機関との連携協力体制について別紙11に記載すること。		別紙11		39		
イ	小児がんの病理診断または画像診断に関する依頼や手術療法、放射線療法または薬物療法に関する相談など、小児がん連携病院や地域の医療機関等の医師と相互に診断および治療に関する連携協力体制を整備している。	A	はい	(はい／いいえ)	40	☒	☐
ウ	患者の状況等に応じて、地域連携クリティカルパス(拠点病院と小児がん連携病院や地域の医療機関等が作成する診療役割分担表、共同診療計画表および患者用診療計画表から構成される小児がん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。以下同じ。)を整備している。	B	いいえ	(はい／いいえ)	41	☒	
エ	ウに規定する地域連携クリティカルパスを活用するなど、小児がん連携病院や地域の医療機関等と協力し、必要に応じて、退院時に当該小児がん患者に関する共同の診療計画の作成等を行っている。	B	いいえ	(はい／いいえ)	42	☒	
⑤ セカンドオピニオンの提示体制					43		
	小児がんについて、手術療法、放射線療法または薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師によるセカンドオピニオン(診断および治療法について、主治医以外の第三者の医師が提示する医療上の意見をいう。以下同じ。)を提示する体制を有している。また、小児がん連携病院がセカンドオピニオンを提示する体制を構築できるよう適切な指導を行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	44	☒	☐
	セカンドオピニオンの提示体制、問い合わせ窓口について別紙12に記載すること。		別紙12		45		
⑥ その他					46		
	小児がん患者の親へのケアを実施している。	-	はい	(はい／いいえ)	47	☒	
(2)診療従事者					48		
用語の定義: 専任:当該診療の実施担当者で、その他の診療を兼任していても差し支えないが、就業時間の少なくとも5割以上、当該診療に従事しているもの。 専従:就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に専ら従事しているもの。 ※専任の人数には、専従も含めて記載すること。					49		
① 専門的な知識および技能を有する医師の配置					50		
ア	放射線診断に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	16	人 1人以上	51	☒	☐

	放射線診断に携わる医師のうち常勤の人数	-	10	人	52	✓	
イ	薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	-	46	人	53	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専任の人数	A	29	人 1人以上	54	✓	○
	薬物療法に携わる医師のうち専任かつ常勤の人数	B	33	人	55	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専従の人数	B	21	人	56	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	-	21	人	57	✓	
ウ	緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	8	人 1人以上	58	✓	○
	緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	6	人	59	✓	
	緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	2	人 1人以上	60	✓	○
	緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	1	人	61	✓	
	緩和ケアチームの身体症状担当医および精神症状担当医の人数。	-	3	人	62	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	3	人	63	✓	
	受講率	-	100.0	%	64		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	65	✓	
	受講率	-	0.0	%	66		
	小児がん診療において、小児がん患者の主治医や担当医となる者の人数。	-	22	人	67	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	12	人	68	✓	
	受講率	-	54.5	%	69		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	70	✓	
	受講率	-	0.0	%	71		
	施設に所属する医師(非常勤務医師も1人としてカウント)のうち、小児がん患者の主治医や担当医となることは想定されないが、主治医等から診察依頼を受けた場合や当直業務などで小児がん患者に対する診療を行うことがある者の人数。	-	17	人	72	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	8	人	73	✓	
	受講率	-	47.1	%	74		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	75	✓	
	受講率	-	0.0	%	76		
	施設に所属する医師(非常勤務医師も1人としてカウント)のうち、病理診断医や放射線診断医など、小児がん患者との日常的な対面は想定されない者の人数。	-	45	人	77	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	3	人	78	✓	
	受講率	-	6.7	%	79		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	80	✓	
	受講率	-	0.0	%	81		
	施設に所属する初期臨床研修2年目から初期臨床研修修了後3年目までのすべての医師の人数。	-	52	人	82	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	25	人	83	✓	
	受講率	-	48.1	%	84		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	85	✓	
	受講率	-	0.0	%	86		
	病院長はPEACE(成人の緩和ケア研修会)を修了している。	-	はい	(はい/いいえ)	87	✓	
	病院長はCLIC(小児の緩和ケア研修会)を修了している。	-	いいえ	(はい/いいえ)	88	✓	
エ	病理診断に携わる医師の人数。	-	26	人	89	✓	

	病理診断に携わる医師のうち専従の人数	A	9	人	1人以上	90	✓	○
	病理診断に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	B	9	人		91	✓	
② 専門的な知識および技能を有するメディカルスタッフの配置								
ア	放射線療法に携わる診療放射線技師の人数。	A	10	人	1人以上	93	✓	○
	放射線療法に携わる診療放射線技師のうち常勤の人数	-	10	人		94	✓	
	放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等の人数。	A	8	人	1人以上	95	✓	○
	放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等のうち常勤の人数	-	8	人		96	✓	
イ	薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師の人数。	-	1	人		97	✓	
	薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師のうち常勤の人数	A	1	人	1人以上	98	✓	○
ウ	緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の人数。	-	2	人		99	✓	
	緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の常勤の人数	A	2	人	1人以上	100	✓	○
	緩和ケアチームに協力する薬剤師の人数	B	1	人		101	✓	
	緩和ケアチームに協力する公認心理師の人数	B	0	人		102	✓	
エ	細胞診断に関する業務に携わる者の人数。	B	3	人		103	✓	
オ	小児看護やがん看護に関する専門的な知識および技能を有する専門看護師または認定看護師の人数。	B	0	人		104	✓	
	うち小児がん看護に関する知識や技能を習得している者の人数	B	0	人		105	✓	
カ	小児科領域に関する専門的知識を有する公認心理師又は臨床心理士、社会福祉士（特に医療ソーシャルワーカー）、医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等のような、療養を支援する担当者の人数。	B	2	人		106	✓	
	小児科領域に関する専門的知識を有する公認心理士又は臨床心理士の人数	-	1	人		107	✓	
	小児科領域に関する専門的知識を有する社会福祉士の人数	-	1	人		108	✓	
	医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等の人数	-	0	人		109	✓	
③ その他								
ア	小児がん患者の状態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、各診療科の医師における情報交換・連携を恒常的に推進する観点から、各診療科が参加する話し合いの場等を設置している。	B	はい	(はい/いいえ)		111	✓	
イ	拠点病院の長は、当該拠点病院において小児がん診療に携わる専門的な知識および技能を有する医師の専門性および活動実績等を定期的に評価し、当該医師がその専門性を十分に発揮できる体制を整備している。なお、当該評価に当たっては、手術療法・放射線療法・薬物療法の治療件数（放射線療法・薬物療法については、入院・外来ごとに評価することが望ましい。）、紹介されたがん患者数その他診療連携の実績、論文の発表実績、研修会・日常診療等を通じた指導実績、研修会・学会等への参加実績等を参考とすること。	A	はい	(はい/いいえ)		112	✓	○
	学会・教育・研修活動のための予算が計上されている。	-	いいえ	(はい/いいえ)		113	✓	
	論文発表、学会発表等を病院業績集等で報告している。	-	いいえ	(はい/いいえ)		114	✓	
(3) 医療施設								
① 専門的ながん医療を提供するための治療機器及び治療室等の設置								
ア	放射線療法に関する機器を設置している。ただし、当該機器は、リニアックなど、体外照射を行うための機器であること。	A	はい	(はい/いいえ)		117	✓	○
イ	集中治療室を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)		118	✓	○
	集中治療室を設置している場合、一般向けの特集中治療室(ICU)の数	-	10	床		119	✓	
	集中治療室を設置している場合、小児専門の特集中治療室(PICU)の数	-	0	床		120	✓	
ウ	小児がん患者およびその家族が心の悩みや体験等を語り合うための場所およびその機会を設けている。	A	はい	(はい/いいえ)		121	✓	○

小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況について別紙13に記載すること。

別紙13

122

	小児がん患者およびその家族が語り合うための場の一覧を別紙14に記載すること。		別紙14	123		
	小児がん患者およびその家族を対象とした小児がんの医療・支援に関する勉強会等を開催した回数(平成30年1月1日～12月31日)	-	1回	124	✓	
② 敷地内禁煙等						
	敷地内禁煙の実施等のたばこ対策に積極的に取り組んでいる。	A	はい (はい/いいえ)	125	✓	○
	敷地内は全面禁煙である。	-	はい (はい/いいえ)	126	✓	
(4) 診療実績						
	① 小児がんについて年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が30例以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい (はい/いいえ)	127	✓	○
	② 固形腫瘍について年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい (はい/いいえ)	128	✓	○
	③ 造血器腫瘍について年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい (はい/いいえ)	129	✓	○
	診療実績等について別紙2および別紙15に記載すること。		別紙2・別紙15	130		
(5) その他						
	① 小児がん医療について、外部機関による技術能力についての施設認定(以下「第三者認定」という。)を受けた医療施設である。	A	はい (はい/いいえ)	131	✓	○
	特定非営利活動法人日本小児血液・がん学会が認定する「日本小児血液・がん専門医研修施設」である。	-	はい (はい/いいえ)	132	✓	
	特定非営利活動法人日本小児外科学会が認定する「認定施設」である。	-	はい (はい/いいえ)	133	✓	
	② 小児がんに係る骨髄・さい帯血等の移植医療について、第三者認定を受けた医療施設である。	A	はい (はい/いいえ)	134	✓	○
	公益財団法人骨髄移植推進財団の移植認定病院である。	-	はい (はい/いいえ)	135	✓	
	日本さい帯血バンクネットワークの移植医療機関の登録施設である。	-	はい (はい/いいえ)	136	✓	
	③ 一般社団法人小児血液・がん学会が主催する「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置または配置を予定している。	A	はい (はい/いいえ)	137	✓	○
	上記研修会を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置している。	-	はい (はい/いいえ)	138	✓	
	配置している上記研修会を受講した医師の人数	A	1人	139	✓	○
	配置している上記研修会を受講した医師以外の医療関係者の人数	-	3人	140	✓	
	(配置していない場合)令和元年度中に講習を受講する予定である。	-	はい (はい/いいえ)	141	✓	
2 研修の実施体制						
	小児がん連携病院や地域の医療機関等の多職種の医療従事者も参加する小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等を毎年定期的に開催している。	A	はい (はい/いいえ)	142	✓	○
	小児がんに関する研修等の回数および研修プログラムの状況について別紙16に記載すること。		別紙16	143		
3 情報の収集提供体制						
(1) 相談支援センター						
	小児がん拠点病院の指定要件で規定する相談支援を行う機能を有する部門(以下「相談支援センター」という。なお、相談支援センター以外の名称を用いても差し支えないが、その場合には、がん医療に関する相談支援を行うことが分かる名称を用いることが望ましい。)を設置し、院内の見やすい場所に相談支援センターによる相談支援を受けられる旨の掲示をするなど、相談支援センターについて積極的に広報している。なお、小児がん患者及びAYA世代にあるがん患者に対しては、小児・AYA世代のがんに関する一般的な情報提供、療育・発達への支援等に加えて、ライフステージに応じた長期的な視点から、他の医療機関や行政機関、学校等と連携し、就学・就労・生殖医療等への相談対応や患者活動への支援等の幅広い相談支援が必要となることに十分に留意し、患者のみならず、患者のきょうだいを含めその家族に対する支援も行っている。	A	はい (はい/いいえ)	144	✓	○

広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	院内掲示、webサイトに掲載		151		
相談支援センターの体制について別紙17に記載すること。		別紙17		152		
相談支援センターの状況について別紙18に記載すること。		別紙18		153		
相談支援センターの問い合わせ窓口について別紙19に記載すること。		別紙19		154		
「小児がん中央機関による研修について」(平成27年3月31日付け厚生労働省健康局がん対策・健康増進課事務連絡)に定める						
① 小児がん中央機関が実施する所定の研修を修了した、小児がん患者及びその家族等の抱える問題に対応できる専任の相談支援に携わる者を1人以上配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	155	✓	○
② 患者やその家族に対し、必要に応じて院内の医療従事者が対応できるように、①に規定する者と医療従事者が協働できる体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	156	✓	○
③ 院内及び地域の医療従事者の協力を得て、院内外の小児がん患者・AYA世代にある患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	157	✓	○
相談支援に関し十分な経験を有する小児がん患者団体等との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。	B	はい	(はい/いいえ)	158	✓	
小児がん患者団体等との連携について別紙20に記載すること。		別紙20		159		
相談支援センターにおいて、以下の業務を行っている。(相談件数については、別添の留意事項に従って、数えること。なお、1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して良い。)				160		
ア 小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	161	✓	○
アの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	6	件	162	✓	
イ 領域別の小児がん診療機能、診療実績および医療従事者の専門とする分野・経歴など、小児がん連携病院等および医療従事者に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	163	✓	○
イの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	4	件	164	✓	
ウ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	165	✓	○
ウの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	3	件	166	✓	
エ 小児がん患者の発育及び療養上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	167	✓	○
エの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	114	件	168	✓	
エのうち、アピアランスに関する相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	31	件	169	✓	
オ 小児がん患者の教育上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	170	✓	○
オの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	11	件	171	✓	
カ 小児がん連携病院等および医療従事者等における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	172	✓	○
カの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	0	件	173	✓	
キ 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	174	✓	○
キの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	3	件	175	✓	
ク AYA世代にあるがん患者に対する治療や就学、就労支援等に関する相談に対応し支援をしている。なお、自施設での対応が困難な場合は、がん診療連携拠点病院等の相談支援センター等と連携を図り、適切に対応している。	A	はい	(はい/いいえ)	176	✓	○
クの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	10	件	177	✓	
ケ 必要に応じて、小児がん連携病院や地域の医療機関等に対して相談支援に関する支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	178	✓	○
ケの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	1	件	179	✓	
コ その他相談支援に関することを行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	180	✓	○
コの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	28	件	181	✓	

(2)院内がん登録							
①	がん登録等の推進に関する法律(平成25年法律第111号)第44条第1項の規定に基づき定められた、院内がん登録の実施に係る指針(平成27年厚生労働省告示第470号)に即して院内がん登録を実施している。	A	はい	(はい/いいえ)	182	✓	○
②	院内がん登録に係る実務に関する責任部署を明確にし、当該病院の管理者又はこれに準ずる者を長とし、医師、看護師及び診療情報管理士等から構成され、当該病院における院内がん登録の運用上の課題の評価及び活用に係る規定の策定等を行う機関を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)	183	✓	○
③	院内がん登録の実務を担う者として、国立がん研究センターが提供する研修で中級認定者の認定を受けている者の人数	A	1	人 1人以上	184	✓	○
	うち専従者の人数	-	1	人	185	✓	○
	配置された者は国立がん研究センターが示すがん登録に係るマニュアルに習熟している。	A	はい	(はい/いいえ)	186	✓	○
④	院内がん登録の登録様式については、国立がん研究センターが提示する院内がん登録に係る標準様式に準拠している。	A	はい	(はい/いいえ)	187	✓	○
⑤	適宜、登録対象者の生存の状況を確認している。	-	はい	(はい/いいえ)	188	✓	○
⑥	院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報を基にしたがん統計等の算出等を行うため、毎年、国立がん研究センターに情報提供している。	-	はい	(はい/いいえ)	189	✓	○
⑦	院内がん情報を取り扱うに当たっては、情報セキュリティに関する基本的な方針を定めている。	B	はい	(はい/いいえ)	190	✓	○
⑧	院内がん登録を活用することにより、都道府県の実施するがん対策等に必要な情報を提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	191	✓	○
(3)診療実績、診療機能等の情報提供							
	小児がん及びAYA世代で発症するがんについて、自施設及び自らが指定した小児がん連携病院の診療実績、診療機能及び医療従事者の専門とする分野・経歴などを、わかりやすく情報提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	192	✓	○
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	育医療センターのwebサイトに掲載		193	✓	○
(4)その他							
	地域住民に対する病院、相談支援センター、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟(設置されているのみ)に関するアピールを別紙21に記載すること。		別紙21		194		
4 臨床研究に関すること							
	他の拠点病院や小児がん連携病院とも連携し、オールジャパン体制で臨床研究を推進している。	A	はい	(はい/いいえ)	195	✓	○
(1)	治験を除く臨床研究を行うに当たっては、臨床研究法(平成29年法律第16号)に則った体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	196	✓	○
(2)-1	進行中の臨床試験(治験を除く。以下同じ。)の概要および過去の臨床試験の成果を広報している。	A	はい	(はい/いいえ)	197	✓	○
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	医療機関のwebサイトに掲載		198		
(2)-2	進行中の臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)の概要および過去の臨床研究の成果を広報している。	A	はい	(はい/いいえ)	199	✓	○
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	小児がんチームのwebサイトに掲載		200		
(3)	参加中の治験について、その対象であるがんの種類および薬剤名等を広報している。	B	いいえ	(はい/いいえ)	201	✓	
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-			202		
(4)	臨床研究を支援する専門の部署を設置している。	B	はい	(はい/いいえ)	203	✓	
	設置していない場合は設置の予定時期	-	年 月	(西暦XXXX年XX月)	204		
	臨床研究を支援する専門の各部門のメンバーについて別紙22に記載すること。		別紙22		205		
(5)	臨床研究コーディネーター(CRC)を配置している。	B	はい	(はい/いいえ)	206	✓	

臨床研究コーディネーターを配置している場合、その人数	-	24	人	211	☒	
臨床研究の問い合わせ窓口について別紙23に記載すること。		別紙23		212		
臨床研究の実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	28	件	213	☒	
臨床試験以外の臨床研究実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	28	件	214	☒	
治験の実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	294	件	215	☒	
5 患者の発育および教育等に関して必要な環境整備						216
(1) 保育士を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	217	☒	☐
保育士の人数	-	2	人	218	☒	
保育士のうち常勤の人数	-	2	人	219	☒	
(2) 病弱等の特別支援学校または小中学校の病弱・身体虚弱等の特別支援学級による教育支援(特別支援学校による訪問教育を含む。)が行われている。	A	はい	(はい／いいえ)	220	☒	☐
特別支援学校(養護学校)の分校・分教室がある。	-	はい	(はい／いいえ)	221	☒	
特別支援学校(養護学校)による訪問教育を行っている。	-	はい	(はい／いいえ)	222	☒	
病院内に特別支援学級が設置されている。	-	はい	(はい／いいえ)	223	☒	
高等学校段階においても必要な教育支援を行っている。	-	いいえ	(はい／いいえ)	224	☒	
(3) 退院時の復園および復学支援が行われている。	A	はい	(はい／いいえ)	225	☒	☐
教育支援、復園・復学支援の状況について別紙24に記載すること。		別紙24		226		
(4) 子どもの発達段階に応じた遊戯室等を設置している。	A	はい	(はい／いいえ)	227	☒	☐
AYA世代(思春期および若年成人)のための場所を確保している。	-	いいえ	(はい／いいえ)	228	☒	
(5) 家族等が利用できる長期滞在施設またはこれに準じる施設が整備されている。	A	はい	(はい／いいえ)	229	☒	☐
部屋数	-	8	部屋	230	☒	
長期滞在施設が自施設内に設置されている。	-	はい	(はい／いいえ)	231	☒	
長期滞在施設またはこれに準じる施設について別紙25に記載すること。		別紙25		232		
(6) 家族等の希望により、24時間面会または患者の付き添いができる体制を構築している。	A	はい	(はい／いいえ)	233	☒	☐
(7) 患者のきょうだいに対する保育の体制整備を行っている。	B	いいえ	(はい／いいえ)	234	☒	
6 PDCAサイクル						235
(1) 自施設及び小児がん連携病院の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を関係者で共有した上で、適切な改善策を講じている。	A	はい	(はい／いいえ)	236	☒	☐
把握・評価の方法、改善策等について別紙26に記載すること。		別紙26		237		
(2) これらの実施状況につき、地域ブロック協議会において、情報共有と相互評価を行うとともに、地域に対してわかりやすく広報を行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	238	☒	☐
地域への広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	立がんセンターのWebサイトに		239		
7 医療安全体制						240
(1) 組織上明確に位置づけられた医療に係る安全管理を行う部門(以下「医療安全管理部門」という。)を設置し、病院一体として医療安全対策を講じている。また、当該部門の長として常勤の医師を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	241	☒	☐
(2) 医療に係る安全管理を行う者(以下「医療安全管理者」という。)として(1)に規定する医師に加え、専任で常勤の薬剤師及び専従で常勤の看護師を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	242	☒	☐
(3) 医療安全管理者は、医療安全対策に係る研修を受講している。	A	はい	(はい／いいえ)	243	☒	☐

(4) 当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施している。 当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施する場合は、以下の体制を整備している。※上段で「いいえ」の場合、以下の3つの項目は、「-」を選択してください。	-	はい	(はい／いいえ)	244	✓	
	A	はい	(はい／いいえ／-)	246	✓	○
	A	はい	(はい／いいえ／-)	247	✓	○
	A	はい	(はい／いいえ／-)	248	✓	○
(5) 医療安全のための患者窓口を設置し、患者からの苦情や相談に応じられる体制を確保している。	A	はい	(はい／いいえ)	249	✓	○
医療安全体制について別紙27に記載すること。		別紙27		250		

先進医療への対応状況（小児がんに関するもの）

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 北海道大学病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在（実施件数は平成31年4月1日～令和元年7月31日）

先進医療窓口情報							
先進医療の実施		実施していません		(実施しています／実施していません)			OK
先進医療A	問い合わせ窓口			(窓口があります／窓口がありません)			
	窓口名						
	技術名						
	電話番号	代表		内線			
		直通					
	対象となる病名・病状						
実施件数(平成31年4月1日～令和元年7月31日)				件			
先進医療B	問い合わせ窓口	窓口があります		(窓口があります／窓口がありません)			
	窓口名	医事課 診療報酬管理係					
	技術名	① 11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による再発の診断 ② 11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による診断					
	電話番号	代表	011-716-1161	内線			
		直通	011-706-7969				
	対象となる病名・病状	① 頭頸部腫瘍（原発性若しくは転移性脳腫瘍（放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。）又は上咽頭、頭蓋骨その他脳に近接する臓器に発生する腫瘍（放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。）であり、かつ、再発が疑われるものに限る。） ② 初発の神経膠腫が疑われるもの（生検又は手術が予定されている患者に係るものに限る。）					
実施件数(平成31年4月1日～令和元年7月31日)		0		件			

各種小児がんの情報

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
あり

小児がんについての対応状況を記載してください。
※ 各医療機関において「専門とするがん」とは、集学的治療および緩和ケアを提供する体制が整備されているとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等のがん患者の状態に応じた適切な治療を提供する体制が整備されているがんのことをさします。
※ 診療を実施していないがんについて、表の記載は不要です。
※ 内視鏡下手術用ロボットを用いた手術に関しては、その他の治療法の欄に記載すること。

✓チェック欄
に未入力なし

小児脳腫瘍

集学的治療の実施状況

○

(○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

病院名:

北海道大学病院

時期・期間:

令和元年9月1日現在(実績は平成30年1月1日～12月31日)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日										各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ				
主な診療科名 （5診療科まで）	医師数	当該疾患を専門としている医師数		手術	化学療法	放射線療法				陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください				※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容		
						体外照射	定位放射線療法	IMRT	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		治療内容	治療実績	医師の専門分野		
1	脳神経外科	13	3	状況	○	○	○	○	×	○						http://			
				実績	あり	あり	あり	なし	あり	なし	あり					http://			
2	小児科	6	6	状況	○	○	○	○	×	○	○			脳外科、放射線科、小児科など複数の診療科に加えて、MSWやNsなどで構成される定例の Cancer ボードで意思決定され、迅速かつ適切に治療が行われています。	北海道大学病院陽子線治療センター	http://www.huhp.hokudai.ac.jp/proton/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実績	あり	あり	あり	なし	なし	なし	あり	なし			北海道大学病院腫瘍センター小児がんチーム	https://cancer.huhp.hokudai.ac.jp/about/clinical=https://www.huhp.hokudai.ac.jp/hotnews/detail/00000125http://www.huhp.hokudai.ac.jp/proton/about/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
3	放射線治療科	4	3	状況			○	○	×	○				陽子線治療が実施可能	放射線治療科		掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実績			あり	なし	なし	なし	あり				陽子線治療とは	http://www.huhp.hokudai.ac.jp/proton/about/	掲載あり	掲載なし	掲載なし
4				状況												http://			
				実績												http://			
5				状況												http://			
				実績												http://			
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください						治療名						治療内容							
他の治療(1)						自家末梢血幹細胞移植						大量化学療法で抗腫瘍効果を最大引き出すとともに、その副作用である造血障害を自家末梢血幹細胞移植で救済する治療							
他の治療(2)																			
他の治療(3)																			
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日						胚細胞腫瘍、毛様細胞性星細胞腫、びまん性中心性膠腫、髄芽腫、AT/RT、松果体芽腫、上衣腫、星細胞腫、悪性神経膠腫、膠芽腫													

小児の眼・眼窩腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数				治療の実施状況 (○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績 (あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日										各診療科における当該疾患の治療 の特色・患者さんへのメッセージな ど				当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ						
主な診療科名 (5診療科まで)	医師 数	当該疾 患を専 門とし ている 医師数		手術	冷凍 凝固術	光凝固 術	化学 療法	眼動注	放射線療法			陽子線 治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と 合わせてください					※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページから コピーしてください		掲載されている内容				
									体外 照射	IMRT	小線源 治療		他の 治療(1)							他の 治療(2)	他の 治療(3)	治療 内容	治療 実績	医師の 専門 分野
																		見出し	アドレス					
1	眼科	2	2	状況	○	○	×	○	×	○	○	×	○											
				実績	あり	なし	なし	あり	なし	なし	なし	なし	なし											
2	小児科	6	6	状況	○	×	×	○	×	○	○	×	○				眼科、放射線科、小児科など複数の診 療科の連携でスムーズに診療が行われ ています。	北海道大学病院陽子 線治療センター	http://www.huhp.hokudai.ac.jp/proton/	掲載あり	掲載あり	掲載なし		
				実績	あり	なし	なし	あり	なし	なし	なし	なし	なし					北海道大学病院腫瘍 センター小児がん チーム	https://cancer.huhp.hokudai.ac.jp/about/clinical-therapy/proton-therapy/	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
3	放射線治療科	3	3	状況							○	○	×	○			陽子線治療が実施可能	放射線治療科	http://www.huhp.hokudai.ac.jp/hotnews/detail/00000125	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
				実績							なし	なし	なし	なし				陽子線治療とは	http://www.huhp.hokudai.ac.jp/proton/about/	掲載あり	掲載なし	掲載なし		
4				状況															http://					
				実績															http://					
5				状況															http://					
				実績															http://					
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください					治療名					治療内容														
他の治療(1)																								
他の治療(2)																								
他の治療(3)																								
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日					網膜芽細胞腫																			

小児悪性骨軟部腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日											各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ							
主な診療科名 （5診療科まで）	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術				化学療法	放射線療法		陽子線治療	重粒子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください				※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容					
			切・離断術	患肢温存術	再建術	骨移植術		体外照射	小線源治療			他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		治療内容	治療実績	医師の専門分野					
1	小児科	6	6	状況	○	○	○	○	○	×	○	×	○			小児外科、放射線科、小児科など複数の診療科の連携でスムーズに診療が行われています。	北海道大学病院陽子線治療センター	http://www.huho.hokudai.ac.jp/proton/	掲載あり	掲載あり	掲載なし		
				実績	なし	あり	あり	あり	あり	なし	あり	なし	あり					北海道大学病院腫瘍センター小児がんチーム	https://cancer.huho.hokudai.ac.jp/about/clinical/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
2	整形外科	36	2	状況	○	○	○	○	×	×	×	×	×					http://					
				実績	なし	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし						http://					
3	放射線治療科	3	3	状況						○	×	○	×			陽子線治療が実施可能	放射線治療科	http://www.huho.hokudai.ac.jp/hotnews/detail/00000125	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
				実績						なし	なし	あり	なし					陽子線治療とは	http://www.huho.hokudai.ac.jp/proton/about/	掲載あり	掲載なし	掲載なし	
4				状況														http://					
				実績														http://					
5				状況														http://					
				実績														http://					
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください					治療名								治療内容										
他の治療(1)					自家末梢血幹細胞移植								大量化学療法で抗腫瘍効果を最大引き出すとともに、その副作用である造血障害を自家末梢血幹細胞移植で救済する治療										
他の治療(2)																							
他の治療(3)																							
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日					横紋筋肉腫、ユーイング肉腫																		

その他の小児固形腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況 (○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績 (あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日										当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ							
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数		手術	化学療法	放射線療法		陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください				各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください			掲載されている内容				
						体外照射	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)			見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野			
1 消化器外科Ⅰ	4	1	状況	○								全ての科が集結して適切な集学的治療をおこなっていきます。	診療のご案内(小児グループ)	http://www.surg1-hokudai.jp/medicalcare/group/4/	掲載あり	掲載なし	掲載あり				
			実績	あり									http://								
2 婦人科	10	4	状況	○	○	○	○	○			子宮がん、卵巣癌等に対する妊孕能温存治療に取り組んでいます。			http://							
			実績	あり	あり	なし	なし	なし						http://							
3 小児科	6	6	状況	○	○	○	×	○	○	○			小児外科、放射線科、小児科など複数の診療科の連携でスムーズに診療が行われています。同種移植を取り入れて治療成績を向上させています。	北海道大学病院陽子線治療センター	http://www.huhp.hokudai.ac.jp/proton/	掲載あり	掲載あり	掲載なし			
			実績	あり	あり	あり	なし	あり	あり	あり				北海道大学病院腫瘍センター小児がんチーム	https://cancer.huhp.hokudai.ac.jp/about/clinical/	掲載あり	掲載あり	掲載あり			
4 泌尿器科	16	5	状況	○	×	×	×	×						難治性症例が道内各地から集まります。		http://					
			実績	あり	なし	なし	なし	なし								http://					
5 放射線治療科	3	3	状況			○	×	○		陽子線治療が実施可能					放射線治療科	http://www.huhp.hokudai.ac.jp/hotnews/detail/00000125	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
			実績			あり	なし	あり									http://www.huhp.hokudai.ac.jp/proton/about/	掲載あり	掲載なし	掲載なし	
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください					治療名										治療内容						
他の治療(1)					自家末梢血幹細胞移植							大量化学療法で抗腫瘍効果を最大引き出すとともに、その副作用である造血障害を自家末梢血幹細胞移植で救済する治療									
他の治療(2)					同種造血幹細胞移植							健康なドナーから造血幹細胞を含む血液(骨髄や臍帯血)を移植する。同種免疫による抗腫瘍効果も期待する治療									
他の治療(3)																					
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日					神経芽腫、胚細胞腫瘍、腎腫瘍、肝芽腫、PNET、上咽頭癌																

小児血液腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日											当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ				
主な診療科名 （5診療科まで）	医師数	当該疾患を専門としている医師数		化学療法	移植			放射線療法		その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容			
					自家末梢血幹細胞移植	血縁者間同種造血幹細胞移植	非血縁者間同種骨髄移植または臍帯血移植	体外照射	全身照射	他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)				治療内容	治療実績	医師の専門分野	
1 小児	6	6	状況	○	○	○	○	○	○	○			標準治療はもちろん、再発・難治性疾患についても、同種移植、HLA半合致移植、CAR-T療法などを利用して積極的に診療を進めています。	見出し	アドレス				
			実績	あり	なし	あり	あり	なし	あり	あり					http://www.huho.hokudai.ac.jp/proton/	掲載あり	掲載あり	掲載なし	
2 放射線治療科	3	3	状況					○	○				陽子線治療が実施可能	放射線治療科	https://cancer.huho.hokudai.ac.jp/about/clinical-ut/00000125	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
			実績					あり	あり						http://www.huho.hokudai.ac.jp/hotnews/detail/00000125	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
3			状況												http://www.huho.hokudai.ac.jp/proton/about/				
			実績												http://				
4			状況												http://				
			実績												http://				
5			状況												http://				
			実績												http://				
その他の治療法 ※上記の実績欄と合わせて記載してください				治療名							治療内容								
他の治療(1)				HLA半合致同種造血幹細胞移植							HLA半合致のドナーから移植を行い、強力なGVL効果を期待する治療法								
他の治療(2)																			
他の治療(3)																			
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日				ホジキンリンパ腫、白血病、急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群、慢性骨髄性白血病、悪性リンパ腫、ランゲルハンス細胞組織球症															

長期にわたり診療するための具体的な診療体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：北海道大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

自施設内における長期フォローアップの体制、他施設との連携による長期フォローアップの体制等について具体的に記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、ファイル名の頭に別紙3を付けた電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

●長期フォローアップ 長期フォローアップのための専門外来を開設しており、長期フォローアップ手帳を用いた情報の共有、がんスクリーニングなどを行う。

・北海道大学病院での長期フォローアップ

連続性(新生児期から小児期、思春期、成人以降へと時間的に連続するシームレスな医療の提供)と多様性(内科系・外科系を問わず多種専門科との連携による迅速で多様な医療の提供)により、あらゆる晩期合併症(発育障害、二次がん、慢性GVHD、不妊など)に北海道大学病院で対応している

成人となった患者の小児診療科からの移行(WGで成人診療科との連携が病院の体制として確定済み)

血液腫瘍、移植患者 →血液内科
固形腫瘍 →腫瘍内科
脳腫瘍 →脳神経外科

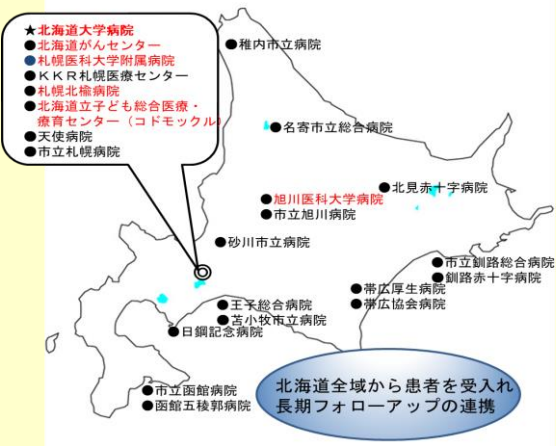
小児および成人での長期フォローアップ内容について
WGで「長期フォローアップノート」「サポートブック」作成
晩期合併症、がんスクリーニング(小児がん治療後の長期フォローアップガイドラインに基づいて行う)

・地域中核病院との連携での長期フォローアップ

北大から小児がんだけではなく、小児全領域に専門医が専門外来に出向き、地域での全人的長期フォローアップ体制の確立。成人となった患者は地域中核病院の小児および成人診療科と専門医との定期的な話し合いによる連携

●生殖細胞保存

国内外のガイドラインなどを参考とし、病院全体のプロジェクトとして患者さん向けのパンフレットや同意説明文書作成(若年成人、思春期、児童、代諾者向け)。晩期合併症対策および長期フォローアップに不可欠。



AYA世代への診療提供体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：北海道大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

AYA世代への診療提供体制（自施設・他施設の成人診療科との連携状況等）について記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙4を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

（あり／なし）

ファイル形式

（ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他）

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

AYA世代支援チーム（腫瘍センター内に設置）

医師（内科(3)、外科(3)、小児科、婦人科、耳鼻科、脳神経外科、精神科、放射線科、泌尿器科、口腔外科、緩和ケアチーム）、**看護師**（がん診療(2)、緩和チーム、小児診療）、**薬剤師**（成人、小児）、**社会福祉士**（成人、小児）、**子ども療養支援士**

北海道大学病院のAYA世代診療・支援体制の確立に向けたチームとしての取り組み

- ・ 北海道大学病院はAYA支援チームのモデル施設のひとつ（清水班）
- ・ 高校生向けの院内教育施設の設置について教育委員会に要請中
- ・ ハローワーク職員の来院による「出張ハローワーク」
- ・ 小児慢性特定疾病の医療費助成につき関係診療科等で情報共有できる体制を整備へ。
- ・ 小児がんサバイバーだけでなくAYA患者の長期フォローアップ体制を構築する。
- ・ がん患者に対する医療費助成や就労支援等、経済的にサポートする社会制度が少なく、AYA世代の患者のために特化した相談窓口の開設を検討する。
- ・ 苦痛等のスクリーニング体制をAYA世代支援にも活用へ。
- ・ AYA世代のがんは希少であり患者個々の問題についてチームによるカンファレンスを行う体制へ。
- ・ AYA世代への支援機能として大学と地域の連携体制を構築する。
- ・ ピアサポートの体制に関しては、院内は未整備であり今後の課題である。

小児がんチームや他の事業との共同事業

小児がんチームとの共同事業

生殖細胞保存体制の構築

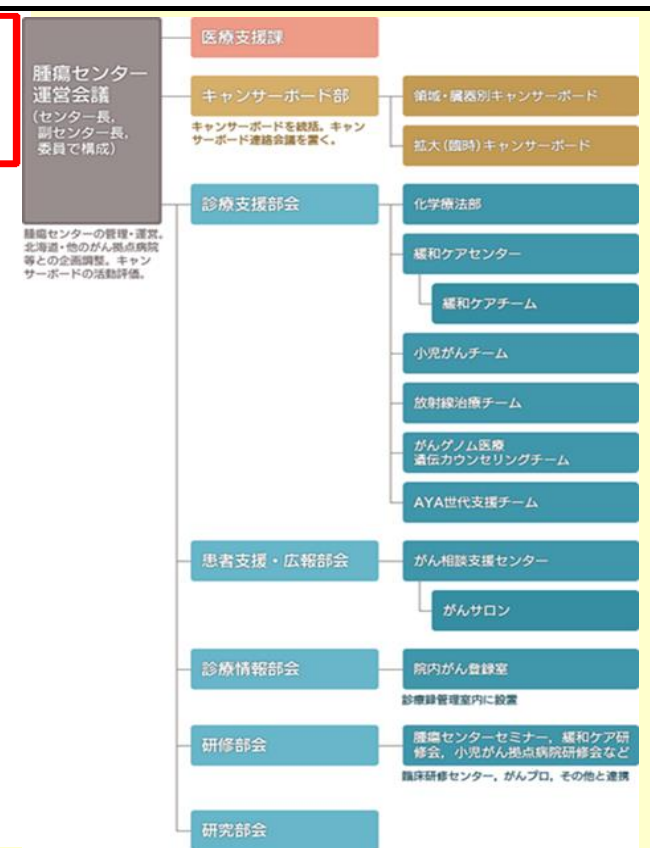
長期フォローアップ体制の構築

就学支援（復学支援、院内教育施設の充実化）

がん診療連携拠点病院、造血幹細胞移植推進拠点病院としての共同事業

就労支援（出張ハローワーク月1回実施中）

医療相談室での相談内容の充実・明確化



生殖機能の温存の支援を行う体制

記載の有無
あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：北海道大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在（患者数は平成30年1月1日～12月31日）

■生殖機能の温存の支援を行った患者数について記載すること。

がんの治療に際する妊よう性温存目的で精子保存を行った患者の数（平成30年1月1日～12月31日）	0
がんの治療に際する妊よう性温存目的で未受精卵子、受精卵（胚）、あるいは、卵巣組織の凍結保存を行った患者の数（平成30年1月1日～12月31日）	1
がんの治療に際する妊よう性温存のために、妊よう性温存ができる他の施設へ紹介した患者の数（平成30年1月1日～12月31日）	0

OK

■生殖機能の温存の支援を行う体制について記載すること。（他施設との連携がある場合は、その連携についても記載すること）

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙5を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

（あり／なし）

OK

ファイル形式

（ワード／－太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他）

その他の場合ファイル形式を記載してください。

北海道大学病院において、

2014年1月に腫瘍センター医師、がん看護専門看護師、血液内科医、血液内科病棟看護師長、小児腫瘍専門医、小児病棟看護師長、乳腺外科医、泌尿器科医、放射線科医、婦人科・生殖医療専門医、婦人科病棟看護師長、精神神経科医、チャイルドライフスペシャリストによる「がん医療における性線機能WG」を立ち上げ活動を開始した。

既存の説明・同意書や海外のガイドラインを参考し、2014年度中に当施設の説明同意書、ガイドラインを作成した。特に、小児領域においては年齢により理解力や意思決定能力に大きな幅があるため、学童期の患者までは代諾者のみに説明同意書を、また若年成人患者には成人患者と同じ説明同意書を用いることとし、思春期の患者にはより平易な言葉や図を用いたわかりやすい説明同意書を作成した。

これらのガイドライン、年齢別説明同意書は当院既存の生殖医療センターの利用案内（相談窓口、精子保存・卵子保存の流れ、費用負担などの記載あり）とともに病院内電子カルテの全科アクセス可能な共有フォルダに納められ、現在全科で運用されている。

2018年になりAYA世代支援チームが組織され、これまでの北大病院の生殖細胞保存のガイドラインをアップデートする作業を行っている。

また、がん医療に関わる職員への啓蒙として、年1回、性線機能に関する院内講演会を行っている。講演会の際に、上記資料の利用案内もリマインドも繰り返しおこなっている。



薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名: 北海道大学病院

開催された委員会の総件数: 12

時期・期間: 平成30年1月1日～12月31日

OK

化学療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の名称、開催頻度、委員会のメンバーを記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

委員会の名称	化学療法プロトコール審査専門委員会	
委員会の開催頻度	月1回	
委員会のメンバー	職種	役職
例	医師、看護師、薬剤師	腫瘍内科センター長、薬剤部長、副看護部長
1	医師	化学療法部長
2	医師	化学療法部副部長
3	医師	内科 I 医師
4	医師	消化器内科医師
5	医師	乳腺外科医師
6	医師	小児科医師
7	医師	血液内科医師
8	薬剤師	薬剤師
9	看護師	病棟副看護師長
10	看護師	化学療法部看護師長, 化学療法部副看護師長

OK

緩和ケアチームの組織・体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：北海道大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

緩和ケアチームの総人数：

10

OK

緩和ケアチームの名称、メンバー等を記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。なお、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する常勤の看護師は指定要件に含まれることに留意して記載すること。

緩和ケアチームの名称		小児がん緩和ケアチーム			OK
職種		常勤／非常勤	専門分野	資格等	
例	医師、看護師、薬剤師		麻酔科、精神科、がん看護	緩和ケアに関するものを3つまで記載してください。	
1	医師	常勤	麻酔科	緩和医療認定医	
2	医師	常勤	精神科		
3	医師	常勤	小児科		
4	看護師	常勤	小児看護		
5	看護師	常勤	がん看護	がん看護専門看護師	
6	看護師	常勤		子ども療養支援士	
7	薬剤師	常勤			
8	社会福祉士	常勤		小児がん相談員	
9	臨床心理士	常勤			
10	栄養士	常勤			

緩和ケアチームへの患者紹介の手順

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：北海道大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

緩和ケアチームへの患者紹介の手順について記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙8を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり／なし)

ファイル形式

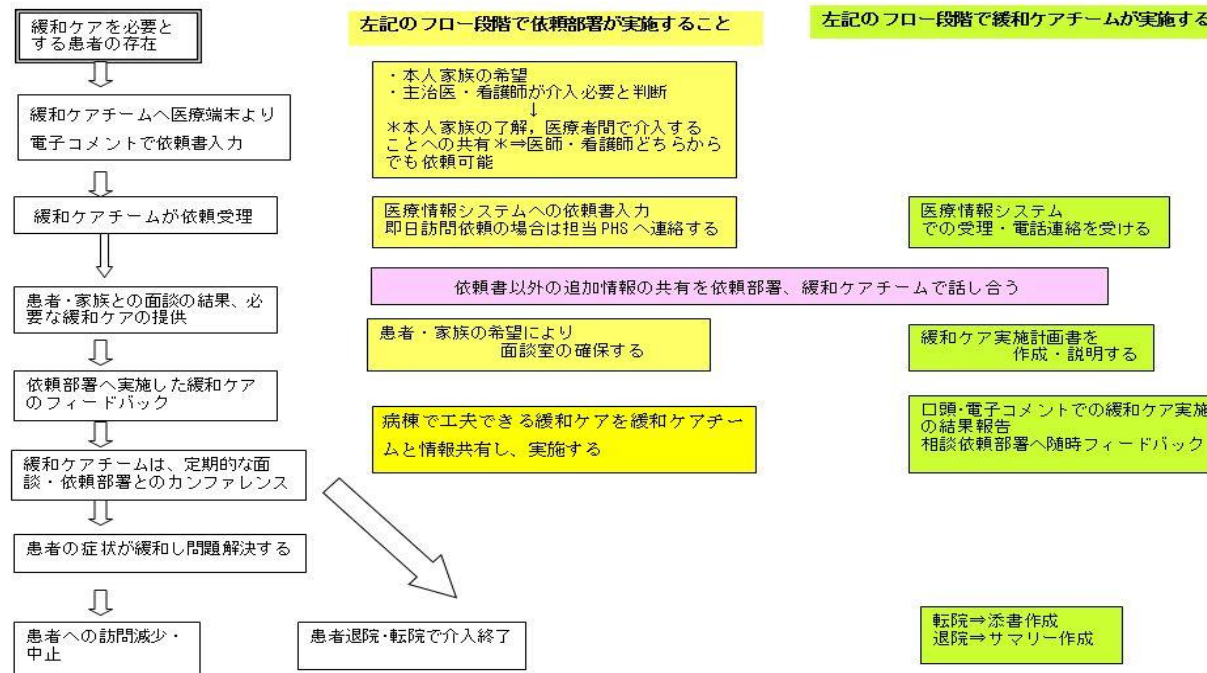
(ワード／－太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

北大病院腫瘍センター緩和ケアチーム コンサルテーションの流れ

H25. 8. 30 更新



緩和ケア外来の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：北海道大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

1	緩和ケア外来が設定されている（はい/いいえ）										はい	OK
2	緩和ケア外来の名称		緩和ケア外来									
3	担当診療科名		消化器内科									
4	主な診療内容・特色		がんの治療期から適切な緩和ケアを提供し、患者さんやご家族の痛みなどのつらい症状を和らげたり、こころのケアを行い、より豊かな生活を送れるよう主治医や外来スタッフと協力してサポートしています。									
5	緩和ケア外来の説明が掲載されているページ		見出し	北海道大学病院腫瘍センター 緩和ケアセンター								
			アドレス	https://cancer.huhp.hokudai.ac.jp/about/clinical-support-group/clinical-support-group-2#cs2-8								
6	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）										はい	OK
7	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										はい	
	窓口の名称		がん相談支援センター									
	電話	代表	011-716-1161	（内線）	7040			直通	011-706-7040			
8	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										はい	OK
	窓口の名称		医事課初診予約担当									
	電話	代表	011-716-1161	（内線）	6037			直通	011-706-6037			

緩和ケア病棟の状況

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 北海道大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください。

1	緩和ケア病棟を有している	病棟がありません				
2	緩和ケア病棟入院料の届出・受理					
3	小児の入院可否					
4	緩和ケア病棟の形式					
5	緩和ケア病棟の病床数		床			
6	緩和ケア病棟の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください。	見出し				
		アドレス	http://			
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）					
8	入院予約後の入院までの待機期間 ※転棟、緊急入院を除く					
9	緩和ケア病棟を担当するスタッフの職種・人数（人） ※常勤・非常勤、専従・専任・兼任などに関わらず、緩和ケア病棟の診療に携わっているスタッフについて記載してください。	（例） 医師	2	（例） 精神保健福祉士	1	

10	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										
	窓口の名称										
	電話	代表		(内線)				直通			
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			アドレス	http://					
11	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										
	窓口の名称										
	電話	代表		(内線)				直通			
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			アドレス	http://					
12	緩和ケア病棟の設備	例: 家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、デイルーム(食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある)、特殊入浴室									
13	訪問看護ケアの有無	例: 自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケアステーションを紹介している、など									

地域の医療機関との連携協力体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 北海道大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

地域の医療機関との連携協力体制について自施設の取り組みや今後の予定を記載すること。(例:診療実績の少ない●●については××病院と協力。●●治療については××病院へ紹介。小児がん患者の在宅医療については●●診療所と連携し、急変時には受け入れることとしている。成人領域については××病院と協力し定期的に情報共有を図っている。)2枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙11を付けた電子ファイル**、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

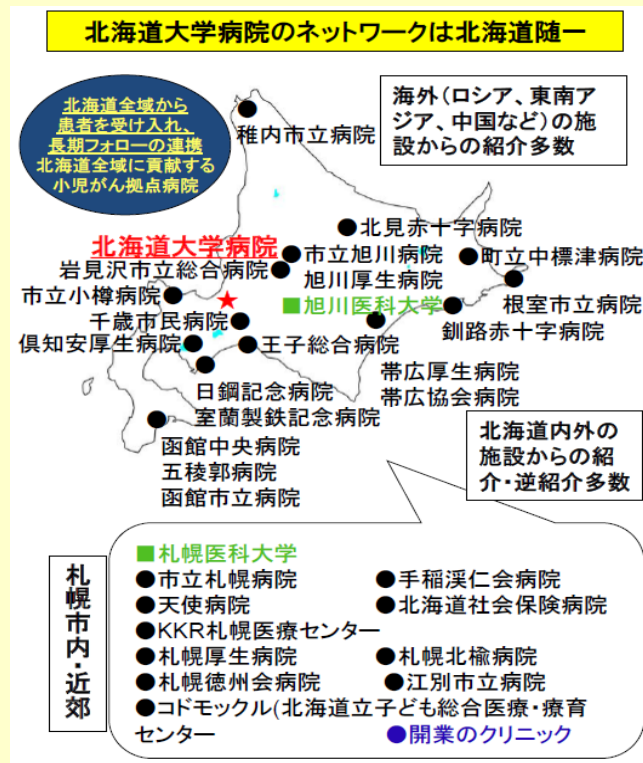
(あり／なし)

ファイル形式

(ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK



- (1)小児がん医療従事者研修事業
- ・小児がん医療者研修は北海道大学病院の造血幹細胞移植推進事業と合同
 - ・北海道大学病院 腫瘍センターセミナー
 - ・北海道内3大学勉強会
- (2)小児がん拠点病院ネットワーク事業
- ・第3回 北海道地域小児がん医療提供体制協議会(道も参加)
 - ・北海道の各地域中核病院での研修会、勉強会
- (3)小児がん相談支援事業
- ・第2回 北海道地域小児がん相談支援部会
 - ・市民公開講座

平成30年度 造血幹細胞移植拠点病院研修会 第3回 造血幹細胞移植セミナー
平成30年度 第6回 北海道大病院 小児がん拠点病院研修会

造血幹細胞移植における 合併症と長期フォローアップ

造血幹細胞移植の進歩に伴い、移植後の長期生存者は増加しています。一方で治療に伴い生じる様々な合併症により身体的だけでなく精神的、社会的な問題を抱えている患者さんも多く、造血幹細胞移植後の生活の質 (quality of life: QOL) の重要性が問われています。

今回、造血幹細胞移植における合併症と長期フォローアップ (long term follow-up: LTfU) をテーマに、小児科および血液内科それぞれ立場から見た現状および問題点について、全国的にご著名な先生方からご講演頂きます。

移植医療に関わる全ての施設・職種の方々、移植医療に興味のある方、全ての皆様の参加をお待ちしています。

日程	2018.1 (Sat)	定員	150名
時間	15:00~18:00 (開場14:30)	対象者	血液内科診療・小児がん診療に携わる方、研修医、看護士さん
開場	会場・研修施設ACU-A 大研修室1606	参加費	無料

札幌市内の会場は北海道大学小児科病棟にて実施いたします。



第5回

北海道大学病院 小児がん拠点病院 市民公開講座

北海道大学病院小児がん拠点病院の活動

北海道大学病院小児がんチーム小児がん相談員 本間陽子

今の教育、保育は どうなっているの？

慶女子大学 人間生活科学部保育学部
教授 菅田富士子





2018年
11月11日(日)
 13:30～15:00 (開場13:00)

無料・申込不要
 小児がんの現状と治療
 ・小児がんの現状
 ・小児がんの診断・治療
 ・小児がんの予防
 ・小児がんの相談



北海道大学病院

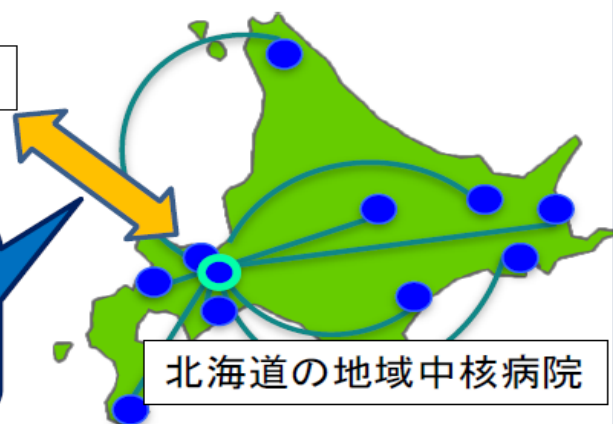
連携
共同研究



小児がん診療病院

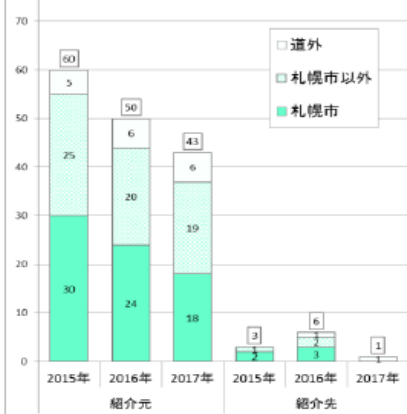
旭川医科大学
札幌医科大学
札幌北楡病院
北海道立子ども総合医
療・療育センター
北海道がんセンター

患者の紹介/
逆紹介
出張外来
長期フォロー

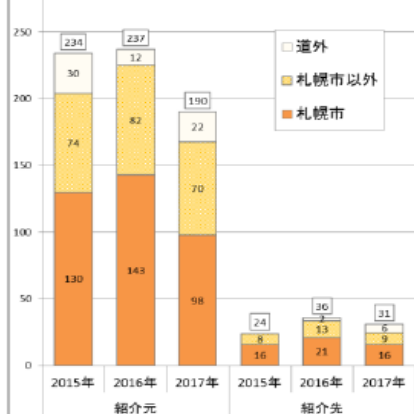


北海道の地域中核病院

【小児がん】紹介元・紹介先症例数



【AYA世代】紹介元・紹介先症例数



北海道内の小児がん診療病院との連携

- ・定期的な研究会や症例検討会が開催
北海道内3医育大学の定期的な勉強会

地域連携のための取り組み

- ・北海道全域から患者を受け入れ
- ・小児がん専門医だけでなく小児全領域専門医が
地域中核病院での出張外来の開設
- ・在宅医療機関と連携を強化
- ・地域中核病院での講演会・勉強会開催し、大学
からも講演に出向く。
- ・地域連携クリティカルパスの整備のための検討を
地域中核病院と共同で開始した。

人材育成・交流、講演会、Web中継

- ・小児がん勉強会などの北大でのセミナーの
北海道内Web配信
- ・北海道大学病院主催の小児がん講演会の定例化

北海道大学病院でないとできない先進的な診療に おける連携

- ・陽子線治療
- ・治験や新薬の臨床試験
- ・造血幹細胞移植

小児がんに対して、手術、放射線療法または化学療法に携わる専門的な知識
および技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名：北海道大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在(実績は平成30年1月1日～12月31日)

■病院のホームページで「セカンドオピニオン」の説明が掲載されているページの内容

ホームページ	見出し	セカンドオピニオン外来について	アドレス	http://www.huhp.hokudai.ac.jp/hotnews/detail/00000250.html		
問い合わせ先の 電話など	対応可能な 疾患名	対応した患者数 (実績)	担当する医師の情報			保険診療、または 保険外診療である旨
			医師名	診療科	専門分野	
掲載あり	掲載あり	掲載なし	掲載なし	掲載なし	掲載なし	掲載あり

疾患ごとに、セカンドオピニオンを担当する医師に関する情報を5名まで記載してください。
※対応状況で「対応不可」を選択した場合は、「セカンドオピニオンを担当している医師」に関する表への記載は不要です。

✓チェック欄
に未入力な
し

小児脳腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	脳神経外科	○	○	○	○	
2人目	小児科	○	○	○	○	造血幹細胞移植
3人目						
4人目						
5人目						

OK

小児の眼・眼窩腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	眼科	○	○	×	×	
2人目	小児科	○	○	○	○	
3人目						
4人目						
5人目						

OK

小児悪性骨軟部腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	1	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児科	○	○	○	○	造血幹細胞移植
2人目	整形外科	○	○	×	×	
3人目						
4人目						
5人目						

OK

その他の小児固形腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	1	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	消化器外科 I	○	○	○	×	
2人目	婦人科	○	○	○	○	
3人目	小児科	○	○	○	○	造血幹細胞移植
4人目	泌尿器科	○	○	×	×	
5人目						

OK

小児血液腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児科	○	○	○	○	造血幹細胞移植
2人目						
3人目						
4人目						
5人目						

OK

小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況

記載の有無
あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：北海道大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

小児がん患者の遊びの場（プレイルーム等）やAYA世代の交流・勉強の場、患者家族が語り合うための場（患者サロン等）について記載すること。さらにおもちゃ・図書・パソコン・運動設備等の有無、保育士等の配置などについても記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。2枚以内におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙13を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無	なし	(あり／なし)
ファイル形式		(ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)
その他の場合ファイル形式を記載してください。		

OK

<プレイルーム>

保護者と一緒に玩具を広げて遊んだり、本を読んだりして過ごせる空間であり、年齢に応じた情緒発達のために役立つ玩具、楽器、図書などが備わっている。患者団体やボランティア団体と連携しミニコンサートや夏祭り、ハロウィン、クリスマスなど季節感を取り入れたさまざまなイベントを開催している。小児科病棟に2名の保育士が配置されており、プレイルームで集団保育を行ったり個別にベッドサイドで発達に合わせた遊びの提供を行っている。

また、小児科病棟に入院中の患者さんやご家族がお互いに知り合い交流するための機会としてボランティアの協力を得て月1回茶話会を開催している。入院生活についての情報交換やゆっくり語り合えるくつろぎの場となっている。





<学習の場・ひまわり分校>

平成27年4月から、札幌市立幌北小学校ひまわり分校及び札幌市立北辰中学校ひまわり分校が設置されている。小中合同で実施している総合的な学習の時間では、多様なゲストティーチャーを招いた取組も行っている。充実した教育活動を通して、児童生徒の心の安定を図るとともに、失いがちになる学習への意欲を児童生徒にもたせることを大きなねらいとしている。



(小学校)



(中学校)

<運動施設>

院内6階にスポーツ運動療法施設を設置している。ボランティアによる人形劇やジャグリングショーなども開催されている。



(スポーツ運動療法施設)

<家族サロン>

小児がん患者さんのご家族のためのサロンを月1回開催している。日常生活に役立つレクチャーを企画し、ご家族同士が情報交換をしたり、日頃の思いを気兼ねなくお話しできる交流の場を提供している。



(サロン)

小児がん患者およびその家族が語り合うための場

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名：北海道大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

語り合うための場総件数：

2

OK

1. 小児がん患者およびその家族が語り合うための場を記載してください。

	名称	主催者名	病院 職員の 関与	活動状況		参加対象者			主な活動内容	参加対象者向けの 院内の問い合わせ窓口 (窓口の名称・電話番号)	
				定期 / 不定期	頻度 (回)	病名	院外からの参加 (参加可/参加不可)	患者のみ / 家族のみ / 患者・家族		名称	電話番号
例	〇〇〇会	〇〇〇会	なし	定期	週 1	小児がん	参加可	患者・家族	小児がん患者の親の交流会を開催している。	相談支援センター	XXX-XXX-XXXX直通
1	茶話会	公益財団法人がんの子どもを守る会北海道支部	あり	定期	月 1	小児がん	参加不可	患者・家族	小児がん患者及び家族の交流会を開催している。	小児科病棟	011-706-5787直通
2	ゆるりサロン	北大病院がん相談支援センター	あり	定期	月 1	小児がん	参加可	患者・家族	小児がん患者さんのご家族を対象にミニレクチャーや茶話会などを開催している。	がん相談支援センター	011-706-7758直通
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											

2. 患者および家族向けの図書室の設置状況を記載してください。

※院内の相談支援センターなどの図書室について記載してください。院内図書室以外は3ページ目に記載してください。

1	患者および家族向けの図書室の設置	設置なし	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。					
2	図書室の名称							
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し						
		アドレス	http://					
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載		その他					
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系の ビデオ・DVD	医療系の 冊子	
		医学専門書	一般向け 医療系図書	医学専門 雑誌	一般向け 医療系雑誌			
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機		
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表			(内線)			
		直通1			直通2			
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア		2	人
				人				人
				人				人
9	ピアサポーターによる対応（実施/未実施）	未実施						

OK

OK

3. 院内の相談支援センターなどの図書室以外の場所に図書等が設置されている場合を記載してください。

1	院内図書室以外の場所に図書等の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。						
2	図書等が設置されている場の名称	がん相談支援センター 図書コーナー							
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し							
		アドレス	http://						
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載	制限なし	その他						
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系の ビデオ・DVD	医療系の 冊子		
		医学専門書	一般向け 医療系図書	医学専門 雑誌	一般向け 医療系雑誌				
			50冊以上			10種類以上	100種類以上		
			制限なし			制限なし	制限なし		
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機			
		設置なし		設置あり		設置なし			
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	011-716-1161		(内線)	7040			
		直通1	011-706-7040		直通2				
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師		1	人	ボランティア		2	人
		社会福祉士		1	人				人
					人				人
9	ピアサポーターによる対応（実施/未実施）	未実施							

OK

OK

診療実績等

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：北海道大学病院

	年間新規症例数(※) (平成30年1月1日～12月31日)		年間新規症例数(※) (平成30年1月1日～12月31日)
造血器腫瘍合計	22	固形腫瘍合計	43
ALL	6	神経芽腫瘍群	4
AML	2	網膜芽腫	2
まれな白血病	0	腎腫瘍	1
MDS／MPDのうちCML	0	肝腫瘍	1
MDS／MPDのうちCMLを除く	1	骨腫瘍	1
Non-Hodgkin Lymphoma	7	軟部腫瘍	4
Hodgkin Lymphoma	0	胚細胞腫瘍	2
その他のリンパ増殖性疾患	1	脳・脊髄腫瘍	25
組織球症(HLH)	2	その他(診断名も記載すること)	耳下腺癌(1) 下行結腸癌(1) 甲状腺癌(1)
組織球症(LCH)	1		
その他の組織球症	0		
その他の造血器腫瘍	0		
Down症TAM 登録	2		

OK

※18歳以下の初回治療例とする。セカンドオピニオンは除く。

小児がんに関する研修プログラムの状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名：

北海道大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在（研修会等の回数は平成30年1月1日～12月31日）

■研修会等の回数について記載すること

小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等の回数（平成30年1月1日～12月31日）	3
うち小児がんの診療に関する研修会等の回数（平成30年1月1日～12月31日）	2
うち小児がんの相談支援に関する研修会等の回数（平成30年1月1日～12月31日）	1
うち小児がんのがん登録に関する研修会等の回数（平成30年1月1日～12月31日）	0
うち小児がんの臨床試験に関する研修会等の回数（平成30年1月1日～12月31日）	0
うち小児がんに関するその他の研修会等の回数（平成30年1月1日～12月31日）	0

OK

■研修プログラムについて記載すること

プログラムの総件数：

1

OK

プログラム名		期間	対象者	H30 年度 (人)	R1 年度 (人)	H26年度以 降のプログ ラム修了者 (人)	H26年度以降プログラム修了者の 現在の勤務先				プログラムの特徴	
		例 2年	例 医師卒後 〇年～〇年				自施設 (人)	自施設以外				
								大学 病院 (人)	小児 病院 (人)	それ以外の 総合病院 (人)		その他 (人)
1	日本小児血液・がん専門医 研修施設研修プログラム(北 海道大学病院)	2年	小児血液・ がん専門医 を志す医師	1	1	2	0	0	0	2	0	日本小児血液・がん専門医の育成。小児血 液疾患および小児がんの子どもたちに質の 高い専門医療を提供するために、小児血液 疾患および小児がん領域に関する幅広い知 識と十分な経験および錬磨された技能を習 得した医師を育成する。
2												
3												
4												
5												

相談支援センターの体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
あり

病院名：北海道大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

相談支援センターの名称、体制、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

相談支援センターの名称		がん相談支援センター						
相談支援センターのメンバー								
職種		常勤／非常勤	専従/専任/兼任	相談業務の 経験年数(年)	相談員基礎研修会の受講状況			中央機関 による研修
					基礎研修会 (1)	基礎研修会 (2)	基礎研修会 (3)	
1	社会福祉士	常勤	専従(8割以上)	1	受講	受講	未受講	受講
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

OK

●年間の相談総件数(平成30年1月1日～12月31日) 132 件
上記1件あたりの平均対応時間 平均 22 分 最短 5 分 最長 345 分 中央値 15 分

OK

相談件数(令和元年6月1日～7月31日)

	相談者	対面相談	電話相談	FAX相談	E-mail相談	計
1	自施設の患者・家族	124	3	0	0	127
2	他施設の患者・家族	1	4	0	0	5
合計		125	7	0	0	132

相談支援内容 ※相談支援センターで最も力を注いでいる相談支援の内容について下記に5つあげてください。国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄で掲載する予定です。		相談支援の対象者
例	がんの診療を行っている医療機関の紹介(70施設を対象に調査を行い、その資料をもとに医療機関の情報を提供しています。)	他施設の患者・家族
1	小児がんに関する相談一般	自施設と他施設の患者・家族
2	医療費や福祉制度の情報提供	自施設と他施設の患者・家族
3	入院療養中の心理社会的支援	自施設の患者・家族
4	ピアサポートの支援	自施設と他施設の患者・家族
5	退院後の生活支援	自施設の患者・家族

OK

相談支援センターの状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：北海道大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

相談支援センターの相談員など、相談支援センターの雰囲気が伝わる画像を貼付してください。

この画像は、国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄に掲載いたします。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙18を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/ー太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

【必須】相談支援センターページの基本情報で掲載する画像を**「1枚」、上記の別添資料の有無に関わらず**提出してください。

※横長の写真の方が収まりがよいです。

※上記の別添資料と同じ画像でも構いませんが、写真ファイル名を**「別紙18相談支援センター画像」**として別に添付してください。

ファイル形式

(PNG/JPEG/GIF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。



図書コーナー



サロン

相談支援センターの問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 北海道大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

1	相談支援センターの名称	がん相談支援センター										OK	
2	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	011-716-1161			(内線)	7040						
		直通1	011-706-7040										
		直通2											
		直通3											
3	対面相談の実施(実施/未実施)	実施											OK
	予約の要否(必要/不要)	必要											
	電話相談の実施(実施/未実施)	実施											OK
	相談用の電話番号	代表	011-716-1161			(内線)	7040						
直通1		011-706-7040			直通2								
予約の要否(必要/不要)		必要											
4	FAX相談の実施(実施/未実施)	未実施											OK
	相談用のFAX番号 ※半角英数で記載 ※代表番号は、直通番号がない場合のみ記載	直通1				直通2							
		代表											
		電子メール相談の実施(実施/未実施)	未実施										
	相談用の電子メールアドレス ※半角英数で記載 ※個人のメールアドレスは記載しないでください	1											
2													
5	相談員の職種・人数 ※選択肢に含まれていない職種の場合は、その他の欄に直接記載	(例)精神保健福祉士				2	人	ソーシャルワーカー(上記以外)				1	人
		社会福祉士				1	人					人	
							人					人	
							人					人	
							人	その他				人	
							人	その他				人	
6	ピアサポーターによる対応(実施/未実施)	未実施											OK
	具体的な活動内容												
	地域の患者会の情報提供の有無	あり											OK
	提供可能な患者会の数	2											

7	上記患者会の参加対象者の疾患名 ※特定の疾患の患者さんや家族を対象とした患者会が含まれている場合のみ記載 (例:乳がん、血液腫瘍、子どものがん、女性のがんなど)	小児がん、AYA世代がん(がん種は問わず)
---	--	-----------------------

小児がん患者団体との連携

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

病院名: 北海道大学病院

時期・期間: 平成30年1月1日～12月31日

団体総件数: 7

OK

小児がん患者団体との連携(患者の交流会、勉強会、相談支援、講演会等)があれば記載すること。

小児がん患者団体			具体的な連携の内容 (例: 月1回患者交流会を開催している。市民講演会に演者として参加してもらっている。)
団体名	団体の参加対象者		
1	公益財団法人がんの子どもを守る会	小児がん患者及びその家族、ボランティア	月1回患者家族との交流会や、年に1回人形劇、ジャグリングショーなどを開催し入院中の患児の気分転換を図っている。小児がんに関する講演会や子どもを亡くした親の会「はるにれの会」を開催している。
2	ふきのとう文庫	小児患者及びその家族、ボランティア	第2・第4月曜日に工作、紙芝居、絵本の読み聞かせ、図書の貸し出しなどを通じて患者・家族への支援を行っている。
3	特定非営利活動法人日本ホスピタル・クラウン協会	小児患者及びその家族、ボランティア	第2・第4月曜日に道化師が各病室を訪問し、笑いやパフォーマンスを通じて子ども達への精神的支援(メンタルサポート)を行っている。
4	特定非営利活動法人スマイリングホスピタルジャパン	小児患者及びその家族、ボランティア	第3金曜日に美術・音楽・マジックなどのアーティストによるクラフトワークショップなどの参加型活動を通じて楽しい時間を持ち、闘病に前向きになれるような活動を行っている。
5	北海道大学病院ポプラの会	小児患者及びその家族、ボランティア	毎週火曜日に患者を対象に工作や絵本の読み聞かせなどを行い、発達支援や気分転換を図っている。
6	ボランティア有志者	小児患者及びその家族、ボランティア	月2回親子ビクスを通じて入院中の患者・家族の気分転換を図っている。
7	ボランティア有志者	小児患者及びその家族、ボランティア	月1回ベビーマッサージを通じて入院中の患者・家族の気分転換を図っている。
8			
9			
10			

地域住民へのメッセージ

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：北海道大学病院

※本別紙は、国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」のがん診療連携拠点病院のページに掲載することを目的としています。
※各項目200字以内で記載してください。

1	小児がん拠点病院としてのメッセージ
	(例) 当院は、すべてのがん患者さんの治療方針の決定を外科、腫瘍内科、放射線治療等複数の領域の専門家による「カンサーボード」によって十分に検討し、最善の治療を行うよう努めております。
2	北海道大学病院は、北海道全域から遅滞なく患者さんを受け入れています。院内では関係各診療科の連携のもとで標準的治療を行っています。小児がん拠点病院として豊富な人材・多様な連携・充実した施設・豊富な経験を基に、地域における小児がん診療の円滑な実施を図るとともに、質の高い小児がん医療およびAYA世代医療の提供体制を確立し、北海道で中心的な役割を果たしていく所存です。また、小児がんの臨床および研修において、難治性疾患の集約化、全人的な診療、日常診療のみならず長期フォローアップのための連携、小児がん診療を担う人材の確保・育成、AYA世代支援、先進医療などにより、小児がんの臨床・研修を推進し北海道での小児がん医療向上と支援を行う小児がん拠点病院として、日本・北海道全体の小児がんやAYA世代の患者様への良質な治療と支援を目指します。
	相談支援センターからのメッセージ
3	(例) 医療ソーシャルワーカーが皆様のお話を伺い、一緒に考え、課題解決のお手伝いをさせていただきます。また、お話をお伺いし、専門の看護師やスタッフをご紹介しますことができます。
	小児がん治療を受けている患者さんご家族に対し、ソーシャルワーカーが療養上や日常生活上の悩みや不安などについてお話をお伺いし、医療費や福祉制度などの情報提供や看護師や病棟保育士などと連携して患者さんやご家族の視点に立って問題解決のお手伝いをさせていただきます。また、小児がんに関する書籍やパンフレットなどもご覧いただけます。お気軽にご相談ください。
4	緩和ケアチームからのメッセージ
	(例) 緩和ケアチームには、長年緩和医療に携わっている経験を積んだ医師、看護師、薬剤師が含まれ、身体的な痛みを始め、患者さんの精神的苦痛を和らげるため、担当医と連携し、最善の医療を提供します。
5	当院の緩和ケアチームは、がんの治療期から適切な緩和ケアを提供し、患者さんやご家族の痛みなどのつらい症状を和らげたり、こころのケアを行い、皆様がより豊かに生活を送れるよう主治医や病棟スタッフと協力してサポートしています。緩和ケアを提供するために、専任麻酔科医、精神科医、内科医、歯科医、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、栄養士、リハビリスタッフなどがチームに参加しています。
	緩和ケア病棟からのメッセージ(※緩和ケア病棟が設置されている場合のみ記載してください。)
6	(例) 緩和ケア病棟は、別棟となっており、全室から中庭に出ることが可能で、豊かな自然を感じて、充実した時間を過ごすことができます。

臨床研究を支援する専門の各部門のメンバー

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

病院名: 北海道大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

各部門のメンバー(個人情報を記載しないよう注意すること)

メンバー総人数: 113

OK

各部門名		各部門のメンバーの専門性・職種
例	事務部門、データセンター部門、コーディネーター部門、治験管理室	薬事専門家、CRC、リサーチ・コンシェルジュ、生物統計家、事務担当
1	臨床開発推進部門	薬事専門家、プロジェクトマネージャー、事務担当
2	研究開発推進部門	生体試料室担当者
3	再生医療等推進部門	細胞プロセッシング担当者
4	臨床研究支援部門	臨床研究サポート
5	治験支援部門	CRC、ローカルデータマネージャー、治験事務(治験審査委員会事務)担当者
6	早期臨床試験支援部門	Phase I unit 管理者
7	データ管理部門	データマネージャー、SE
8	生物統計部門、品質管理部門	生物統計家、モニター
9	信頼性保証部門、企画管理部門	監査担当者、事務担当
10	臨床研究監理部	自主臨床研究事務局担当者、特定認定再生医療等委員会事務局担当者、利益相反審査委員会事務局担当者、臨床研究審査委員会事務局担当者

臨床研究の問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：北海道大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

【臨床試験（治験を除く）】の問い合わせ窓口

■臨床試験（治験を除く）に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について			臨床試験（治験を除く）専用の窓口がある				OK
※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。							
1	窓口の名称		臨床研究治験相談窓口				
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究・治験相談窓口				
		アドレス	https://crmic.huhp.hokudai.ac.jp/page/?content=34				
	電話	代表	011-716-1161	(内線)			
		直通	011-706-7600				
■臨床試験（治験を除く）に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について			窓口はない				OK
※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。							
2	窓口の名称						
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し					
		アドレス	http://				
	電話	代表		(内線)			
		直通					

【 臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)】の問い合わせ窓口										
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について								臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究専用の窓口がある		OK
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
1	窓口の名称		臨床研究治験相談窓口							
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究・治験相談窓口							
		アドレス	https://crmic.huhp.hokudai.ac.jp/page/?content=34							
	電話	代表	011-716-1161	(内線)						
		直通	011-706-7600							
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について								窓口はない		OK
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
2	窓口の名称									
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し								
		アドレス	http://							
	電話	代表		(内線)						
		直通								
【 治験 】の問い合わせ窓口										
■治験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口について								治験専用の窓口がある		OK
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
1	窓口の名称		臨床研究治験相談窓口							
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究・治験相談窓口							
		アドレス	https://crmic.huhp.hokudai.ac.jp/page/?content=34							
	電話	代表	011-716-1161	(内線)						
		直通	011-706-7600							
■治験に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について								窓口はない		OK
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
2	窓口の名称									
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し								
		アドレス	http://							
	電話	代表		(内線)						
		直通								

教育支援、復園・復学支援の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：北海道大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

教育支援、復園・復学支援の状況について記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙24を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり／なし)

ファイル形式

(ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

〈1. 教育支援〉

当院に入院中の子どもたちは医師や看護師と連携を図りながら病院に併設されたひまわり分校(小学校、中学校)で授業を受けることができる。

入院する前の学習用具を継続して使用し、入院による学習空白の軽減を図っている。各自のペースに合わせた個別指導が中心であるが、図画工作や美術などでは、校種や学年を超えた活動も行っている。

長期休暇中は病棟で自主学習を行えるように、病棟保育士及び子ども療養支援士がサポートしている。

さらに、医療スタッフ(医師・看護師・病棟保育士など)とひまわり分校の教諭と毎月定期的に連絡会議を開催し患児の病状、生活の様子、学習状況などについて情報共有を図り、連携しながら支援を行っている。

〈2. 復学支援〉

当院に入院中の子どもたちの多くが、前籍校より転校の手続きを行いひまわり分校に登校している。退院時には医療者から日常生活の注意点についてパンフレットを用いて説明を行っている。復学する際に家族が不安を抱えている場合やご家族・原籍校からの要望に応じて復学支援会議を開催し、安心して学校生活を送ることができるように、病状(治療の経過と今後の見通し)、入院中の生活の様子、分校での様子や学習状況、退院後の生活における留意事項などについて情報共有し、復学を支援する。

長期滞在施設またはこれに準じる施設

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：北海道大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

病院からの距離、施設内の設備（調理スペース、ランドリー、プレイルーム等）、人の配置等について記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、ファイル名の頭に別紙25を付けた電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/ノータブル/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

北大病院ファミリーハウスの概要

人の配置：管理人が毎日午後0時～午後6時まで施設内に常駐。その他の時間帯については、入退院センターもしくは事務当直室で対応。

施設内の設備：全8室の宿泊室（バス・トイレ・冷蔵庫・電子レンジ・加湿機能付き空気清浄器付）の他に、管理人室、洗濯機室、身障者用トイレ、談話室兼控室、控室、プレイコーナー及び8台分の駐車場を設置。



居室の様子



和室の様子



台所の様子



洗濯室の様子



プレイコーナーの様子

PDCAサイクルについて

記載の有無 **あり**

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 北海道大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、地域に対して行っている情報提供を記載してください。

- ①院内の見やすい場所に掲示している **いいえ** (はい/いいえ)
- ②院内誌、チラシ等で広報している **いいえ** (はい/いいえ)
- ③ホームページに掲載している **はい** (はい/いいえ)
- ④ホームページに掲載している場合、該当するページのアドレスを記載してください

<https://cancer.hjhp.hokudai.ac.jp/about/clinical-support-group/clinical-support-group/>

- ⑤地域の広報誌等で広報している **いいえ** (はい/いいえ)
- ⑥その他の方法で掲載している **はい** (はい/いいえ)
- ⑦その他の方法がある場合、内容を記載してください

http://www.ncchd.go.jp/center/activity/cancer_center/cancer_hospital/

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、必要に応じて図表などを活用し、具体的に記載すること。

PDCAを使って改善することを想定している課題(いくつでも可)

課題の内容	目標	目標達成の検証方法(データ源)
例) 患者満足度の向上	退院患者の80%が入院治療環境に満足する	3カ月おきに日を設定して患者アンケートを行う。
1 患者満足度の向上のための35項目	小児がん拠点病院としての診療や患者家族支援の質の向上	小児がん診療におけるQuality Indicator (QI)として35指標のQIを選定し、毎年すべての小児がん拠点病院においてそれぞれの施設の調査を行っている。
2 長期にわたるフォローアップのしくみの構築	適切な長期フォローアップのしくみを構築する	小児がん経験者や家族の実態調査をアンケート調査を行っている。
3		
4		
5		

上記の目標に向けた活動計画の予定(未定の場合には、未定と記入)

1	小児がん診療におけるQIは毎年改訂しながら継続的に調査を行う予定。
2	小児がん経験者へのインタビュー調査を順次行っている。
3	
4	
5	

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙26を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

- 別添資料の提出有無 **あり** (あり/なし)
- ファイル形式 **ワード** (ワード/ー太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)
- その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

医療安全体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
あり

病院名: 北海道大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

●医療に係る安全管理を行う部門の名称、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

医療に係る安全管理を行う部門の名称			医療安全管理部		
医療に係る安全管理を行う部門のメンバー					
職種		常勤／非常勤	専従／専任／兼任	人数	うち、医療安全対策に係る研修を受講した者の人数
1	医師	常勤	専従	1	1
			専任		
			兼任	1	
		非常勤	専従		
			専任		
			兼任		
2	薬剤師	常勤	専従	1	1
			専任		
			兼任	1	
		非常勤	専従		
			専任		
			兼任		
3	看護師	常勤	専従	2	2
			専任		
			兼任		
		非常勤	専従		
			専任		
			兼任		
4	歯科医師	常勤	専任(5割以上8割未満)	1	1
5	臨床工学技士	常勤	兼任(5割未満)	1	
6	診療情報管理士	常勤	兼任(5割未満)	1	
7	事務	常勤	専従(8割以上)	2	
8					
9					
10					

OK

●医療安全のための患者窓口

窓口の名称		患者相談室				
電話	直通	011-706-6044				
	代表	011-716-1161	(内線)	6044		

OK